

運動的兒童、感動的兒童

子供には運動的、感動的の二種がある。如何なる理に由つて斯くの如き區別が起るかは別問題として實際子供を見て居るとこの二種のあることはよく分る。即ち運動的兒童は刺激を受けると直に運動する傾を有するものである。此種に屬するものは智識を求むる目的が何かこれを運動に表はしたといふのである。又今一の感動的兒童は自分で余り運動せずして考へて居る。又子供はよく泣くものであるが同じ泣いても運動的の兒は直に何かに氣を轉しさせることが出来る。けれども感動的の兒はなかく泣きやまぬ。凡て運動的の子供は心の様子を全く外部に呈はすものであるが感動的の子供はこれと反對で只心の中で考へて居るから教育者の方で推察しなければならぬ。

家庭の内に音楽がなければ陰氣である。家庭には必ず樂器を備へねばならぬ、樂器がなければ歌うても宜しい。細君が歌ひ、子供が歌ひ、主人も歌ふと云ふことになる、家庭の趣味は益々増して来る、從つて子供の氣韻を高め、理想を高くすることが出来る。
(宮川經輝氏談)

東君著「幼稚園保育法」

を讀む

市川源三

畏友東君、頃者「幼稚園保育法」てふ一書を公にせられ、一本を手に寄せられたり。予や、幼稚園に關して、殆ど、何等の知識を有せざるもの、本書によりて得るところ、甚だ多し。されど、人各々心あり、又議すべく望むべきこと無しといふべからず。よりにて爰に聊か妄言を陳して、かつは、己れの疑を説き、かつは君の好意を空しうせざらんとす。

二

凡そ、教育事業は、その種類の如何なるものたるかを論ぜず、何れも皆必要缺くべからざるものなり。然るに、世人や、もすれば、家庭教育と学校教育、小學教育と中學教育、男性教育と女性教育との間に、價値の高下を定めんと欲するものあり。予私に以て大早計の甚だしきものとなす。思ふに、教育事業たるや、その關係する所極めて多角多様にして尋常一様の事業と比すべくもあらず。然のみならず、その事業の當躰(目的物)とするところの人の精神は、これ亦極めて靈妙複雑の作用を有し、その健否を知り生長發達を測ることの難さ、到底家畜の良否花卉の發育を知るが如きの類にあらざるなり。この故に、某が目して惡教育となすものも他は見て以て可となすこと亦無さ

にわらず。要するに吾人今日の知識の程度を以てしては、かくも複雑困難なる教育事業の良否高下急不急を論ずること能はずと云ふべきなり。世人或は國家が學校教育に力を盡すを見て、學校教育を重要視するものあり、誤れるの甚だしきものなり。國家が學校教育に力を用ゐる所以は、國家の力、學校教育以外に及ぶ能はず、又、及ぶを不可とし不利とする所以に外ならざるのみ。決してこれを以て重要視したるが故と考ふべからず。尙、他の例を以てこれを説かんに、國家は善行者を賞する爲に、僅々一二圓を費すのみなれど、惡行者を捕へこれを罰するまでには、前者に比して數十百倍の多額の金圓を費せり。されど、人もしこれを以て、是れ國家が善行を獎勵するに吝なる所以なりと論せば、三尺の童子も、尙、これを笑ふべ

し。教育のことも、亦、かくの如し。國家が力を用ゐると用ゐざるとは、決して教育事業そのもの高下に關係せざるなり。

三

教育事業は、その種類によりて價値を異にするものにあらざるを前述の如くなれども、教育の方法に至りてはや、趣きを異にするものあり。思ふに、教育事業そのものと教育の方法とは似て非なるものにして、二者決して混同すべきものにわらず、然して教育の方法は被教育者が心身の發達の程度如何によりて必要不必要の差を生ずるものなれば、教育はその方法上より觀察して、種類によりて價値の高下を生ずるなり。世人が幼年教育は重要なり、少年教育は重要なりと云ふは、全くこの義に外ならざるなり。然らば教育の方法中最も研

究を要すべきは、如何なる種類の教育なるかといふに、問はずして幼児の教育たることを知るべし。幼時の教育とは何か。小學校教育か、幼稚園教育か、所謂家庭教育か。これが答は幼弱なる兒童を取扱ふ教育はその方法の價値大にしてこれが研究も亦急なり肝要なりとの一言にて事足るべし。事理は正にかくの如し。然るに、これを今日の實際に徴するに、吾人は忽ち異様の感に打たれざるを得ず。何ぞや、學校教育のみ獨り重きを置かるゝこと、その一なり。小學校教育の方法のみ獨り討究せられ研鑽せらるゝことその二なり。あゝこれそも何の故ぞや。吾人思へらく教育界に於てかゝる事態を呈するは、これ尙衣を着けて裳を脱するが如し、不當不理の甚だしきものなり。よろしく學校教育以上の價値を幼児教育即ち家庭教育に

附與せざるべからず。小學校教育法を研究するよりも、尙、多く時間と精力とを幼児教育法に傾注せざるべからず。幼児教育法の研究は、決して閑人の閑問題にわらず、所謂教育家の片手間に論ずべきものにあらざるなりと。

幼児教育法中、や、秩序ある研究の成りしは、思ふに、幼稚園保育法なるべし。されど、フロエペル去りて茲に五十有餘年、その研究何ほどの進歩をかなしける。吾人は怖る、幼稚園の價値は屢々疑はれ、その廢園の悲命に遭遇したるもの又二三これ無きにあらざりしことを。嗟これ幼稚園そのものの罪ならんや。幼稚園保育法の改良を怠りし人の罪なり。我が友東君は我が國に於ける幼稚園の唯一の研究者なり。少くとも日本の幼稚園事業は君の靈腕に俟つこと多大なり。然して實に君は

着々としてこれが研究に従事せられ、屢々其の結果を本誌上に掲載せられたることは、吾人の親しく知悉するところ、今や又幼稚園保育法てふ一書を著されぬ。まことに、その職につとめたりといふべし。

四

本書は、その名目より判ずるも、著者の現職より考ふるも、全く幼稚園保育法の書たること論無きなり。されど、幼稚園保育法は獨りこれを幼稚園にのみ適用すべしとなすは甚だ不可なり。もとより、全体と云はねど、その多くは採つて以て家庭の保育法となすべきなり。又、なさいるべからざるなり。この意味に於て、予は、本書を以て家庭教育の好參考書となし世の母たり父たる人に推奨せんと欲すると同時に著者が今一際この邊に心を

用ゐられ、尙一層適切なる家庭の讀物たらしめたるらんにはと、薄か遺憾に堪へざるなり。著者も亦序文に於て「……故に著者は學校の教師及世の母たる人に向つても普く本書の一讀を冀ふものなり」と陳べられたり。著者の希望や甚だよし、然れども著者はこの希望に添ふの用意ありしや否や疑ひ無き能はず、何となれば専門家に示すところを直に非専門家に示さんとせられたること歴々として蔽ふべからざるものあればなり。

その文体の平易流暢にして讀み去り讀み來つて何等の苦澁を感じざるは、よく本書の性質と合するものと云ふべく、又、その組織に附ては、まづ教育に關する概論を試み、家庭教育に及び、遂に保育法の本論に移り、終りにフロエベルの略傳學說に入り、最後に附するに幼稚園の設備を以てした

るなど、用意の周到なる、概ね推して知るべきなり。たい、蜀望せば、前にも陳述せしが如く家庭教育の章と保育法の本論との間に更に一層親密なる連絡あらしめば、益々妙なりしならんと感ぜらるゝのみ。

五

予は論評の簡潔ならんことを望むが故に、直に本論に入ることゝすべし。著者は、まづ、幼稚園の必要と題して左の三個の點より幼稚園保育の必要を論述せられぬ。

- 一、父母生計に追はれて兒童を保育すること能はざることあり。
- 二、父母、教養の學理と方術とに暗くして保育せんと欲して能はざることあり。
- 三、家庭教育(個人教育)と學校教育(衆人教育)

との間には連絡無し。然して、幼稚園はその中間に立つものとも云ふべければ、よく兩者の連絡をなすべし。

以上の論旨は、一見甚だ明確にして何等疑を容るゝ餘地なきに似たりと雖、審にこれを考ふるときは、未だ邊に首肯すべからざるところあり。右の第一點に就ては恐らくは何人も異議を挾むことなからん。然れども、第二點に就ては果して保母は實母より多く保育に適したるものなりや、少くとも現今の所謂保母なるもの、中に幾人か世の父母よりもより多く保育の法に長けたりとなすべきものありや。これ、最も疑はしきことなり。更に第三點に就て云はんに、學校教育と家庭教育との間に連絡の乏しきことは吾人も亦これを認む。されど、果してこれに連絡を附せんために、幼稚園を

設けざるべからざるほどの懸隔を生じ居るや、學校教育をして尙一層家庭教育に接近せしむることは不可能のことなりや、家庭教育をして尙一層學校教育に接近せしむる方案無しや。凡そ、これらの問題に答ふるところなくして、漫然連絡の必要あり、従つて幼稚園の設立の必要ありと論ずるはその説を盡したるものと云ふを得べきか、吾人聊か疑無きを得ざるなり。

著者が幼稚園の缺點として述ぶるところもや、不十分ならずやの感あり、著者は幼稚園の弊害として

一、兒童の個性を害す

二、病毒の傳染惡風の傳播の恐れあり。

右の二者を挙げられたり。もとより、この二三に止まれりとせられたるにはあらざるべけれど、そ

の口吻より察すれば、これを以て重大なりとせらるゝや明かなり。されど、これ果して幼稚園の弊害の重大なるものなりや、心力過勞の弊、精神早熟の弊等は幼稚園の弊害として數ふるに足らざるものなりや。少くとも、現今の幼稚園はこれらの弊害に陥れるところ無きか。これ、予が經驗に豊富なる著者に問はんと欲するところなり。尤も、著者は幼稚園保育の要旨と云へる章に於て、從來の幼稚園の知識主義に傾きたるを難せり。その言や甚だよし。されど、かゝる弊は果して從來の幼稚園に於てのみ見るべくして、今日の幼稚園に於ては見るべからざるか、更に一步進めて幼稚園と云ふが如き衆人教育所は、常にかゝる弊害に陥ること、尙兒童の個性を害ふこと必然の結果なるか、如くにはあらざるか。これ、又、予の切に問はん

と欲するところなり。

六

次に、保育事項中の一つなる談話に就て一言せん。著者は、まづ談話の効用を述べ、尋いで談話の種類を分ちて(一)寓話(二)童話(三)神話及英雄談(四)事實談及寓發事項の談話の四つとせられたり。されど、予の考ふるところによれば、更に對話の一項を加へてはいかゞと思はるゝなり。談話は諸般の人事上の關係を知らしむるものなりとは著者も明言せるところ(八十二頁を見よ)なり。されど一步進みて人事上の關係を實習せしむるは尙一層可なりとせざるか。而してこれが爲には對話の一項を加ふること最も必要なりとせざるか。かつや、對話は遊戯と談話とを結合することを得るものにして、これによりて保育事項の間に統一なき弊に陥るこ

とを除去し得べしと信ず。いかん。

次に、恩物に就て一言せん。予嘗て始めてフロエベルが恩物に關する意義を聞かば、その説の漢唐の儒者の陰陽五行の説めきたるに驚き、思へらく、かゝる愚説を基礎として作られたるもの久しくその聲價を保ちしとの不思議さよ。されど、教育の聲價を保ちしとの不思議さよ。されど、教育の研究盛なる今日遠からずしてその價値を疑はるゝに至らんと。今や、本書を繙くに及びて、當時の疑念再び心中に來往するを禁ずるを得ず。そもそも、これ、説の非にして恩物その者の教育的價値を有するに及ぶか。はた、又、師説を墨守し舊慣に泥みてこれを改革せんとする人の出でざるに及ぶか。予はもとよりその前説の如くならんことを欲すれども、事實は寧ろ後説の如くなるに似たり。いかん。勿論總ての恩物は、氏が一時

の創意に成れるものにわらざるや明かなり。されど、後年作成する所のものも、皆氏と同一の精神を基として案出したるものなれば、又均しくその價値を疑ふべきものなり。予の恩物に對つて價値疑ふべしとするは、凡そ左の三條による。

- 一、抽象的なること。従つて興味に乏しきこと。
- 二、小細工に過ぐること。従つて筋肉の練習には或は有功ならんも、満身の勇氣を鼓して事業に當る良習慣を興ふることを得ざること。
- 三、その多くは机上の手に屬すること。従つて手技の種類に少きに失すること。

二と三とは説明するに及ばず、只第一項のみ少しく説明せんとす。昔者習畫帖に流行したる順序あり、まづ點、線等の畫方を學び、次に三角形、四角形、五角形、圓形等に及び、それより簡單なる

事物の正面圖次に側面圖と次第にその複雑の度を加ふる様仕組みたるものなり。編者は以て單より繁に進じてふ教育上の原則に合せりとなせり。然るに、現今この順序全然不可なりとして曰く、これ具躰より抽象に進じてふ教育上の原則に戻るものなり。これ趣味無く兒童に有害のものなり。この議論は移して以てフロエベル氏の恩物の批評とすべし。思ふに、フロエベル氏の如きも所謂簡より繁に進み、單一より複雑に進むてふ原則を知りて具躰より抽象に進むてふ更に大なる原則の存在することを忘れたるものなり。最後に、保育上一般の注意として陳べられたる中に、遊園を多く利用すべきこと、幼兒の個性を發達せしむべきことの二項は最も時弊に適中したるものなりと信ず。遊園を利用すべしと説くこと、

フロエベル既にこれを説けり、されど之れ説き易くして行はれ難きことと見え、今、尙、かゝる注意を興ふるの必要極めて切なるを思ふなり。而して予は遊園を利用することの乏しき一個の理由は、恩物の机上の業にのみ屬する弊にあらざるやと推察せざるを得ざるなり。遊園に因みて幼稚園に於て家禽家畜を飼ひ、有益無害の動物を養ふことを望む、草木花卉は兒童の自然の友なり。されど鳥獸虫魚は更によりよき自然の友なり。西洋各國の讀本を繙けば、幼兒の家畜家禽と戯れ、虫魚と遊ぶ様各頁に畫かれたり。然るに本邦は動物の種類に富める國と稱せられながら、幼兒は依然として室内に太鼓人形喇叭さては犬張子を友として遊び居れり。幼兒保育の任に當るもの、思はざるべけんや。個性を發達せしめよと説くこと、すべての教

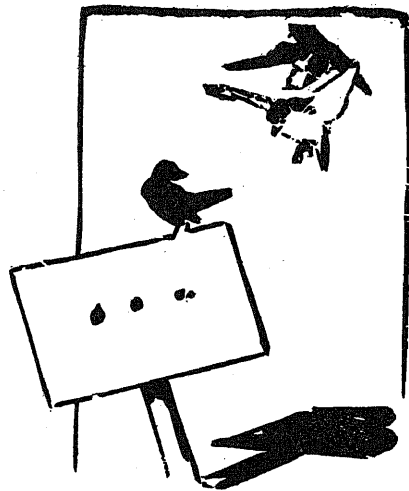
育學者皆同一なり。されど、これが實際の應用に至りては頗る難事に屬す。著者も亦、個性を發達すべしと説きてその方法に及ばざるは遺憾なりといふべし。この點につきて予別に説あり。今、これに云ふべきにあらねば、後日稿を改めてこれを論ぜん。

以上は、一讀その所感を記したるもの、その精細なる評論に至りては自らその人あらん。予や門外漢、その云ふ所悉く肯綮に中らざるを恐る。

妄評多謝。

A good example is the best sermon

よき實例は最良の訓なり。



ワーカーといふ學者の
曰ふに

八歳より下の子供に、自發的の運動を抑制すると精神の活動も亦之に伴つて抑制せられるものだ。子供を訓育して行くには、耳から與へる所の所謂命令的訓育はなるべく少くして、子供の眼に訴へて訓育するのがよ。